令和８年５月１日

# 令和７年度　特別の教育課程の実施状況等について

| 栃木県 | | |
|---|---|---|
| 学　校　名 | 管理機関名 | 設置者の別 |
| 宇都宮市立城山西小学校 | 宇都宮市教育委員会 | 公立 |

１．特別の教育課程の概要

本校は，小規模特認校として地域の実情を踏まえ，「人間尊重」の教育を基盤とし知・徳・体の調和のとれた，心身ともに健康で，豊かな心と確かな学力を身に付けた，たくましく生きる児童を育成することとしている。

○　情操豊かで，思いやりのある子供（やさしく）
○　自ら学び，よく考える子供（かしこく）
○　健康で，やりぬく子供（たくましく）

平成１７年度より小規模特認校に指定され，特色ある教育活動を推進してきた結果，学校統廃合の危機を脱することができ，伝統ある学校として存続できている。それは，「小さな学校だからこそできること」をコンセプトに本校の特色ある教育活動を推進してきたからである。教職員の積極的な学校経営への参画のもと，「誰もが安心して学べ，活力あふれる学校」の実現を図るため，「一人一人を大切にした授業」を中心にして，５つの公約「会話科の継続・充実」「文化人の先生方との授業実践」「地域との確かな連携」「食農体験を通した食育の推進」「放課後活動（こがし桜スクール）の運営」を継続しつつ，「会話科」「食育」「体幹を鍛える運動・体力の向上」の３点を柱として全教職員で指導に努めていきたい。

さらに近年は，３点の柱の一つの「会話科」について，さらに充実した活動や生きた学びにつながることを考え，各教育活動とのつながりにポイントを置き，教育課程を編成している。

本校の「会話科」は，子供たちが様々な人たちと協力し共に生きるために必要なコミュニケーションを図ろうとする態度や，日本語によって考えたことや伝えたいことを目的や状況に応じて内容や趣旨を筋道立てて話したり，効果的な表現を工夫して伝えたりする能力を育成することを目標としている。さらに，日課を工夫し「英会話タイム」を位置付け，全学年で毎日「英会話」に触れることができるようにすることで，そこで経験する表現やコミュニケーションを生活の一部として取り入れられるようにと考えている。

その上で身に付けた力を，他教科・領域等で使ったり，他教科等と関連させて学ばせたりしていくことは，本校が目指す目標を達成するために有効であると考え，その点も考慮して編成をしている。

２．特別の教育課程に基づく教育の実施状況に係る評価　（令和７年度の評価結果より）

| 項目 | 評価項目 | 主な具体的な取組 | 評　価 |
|---|---|---|---|
| グローバル社会に主体的に向き合い，郷土愛を醸成する教育の推進 | Ａ６　児童は,英語を使ってコミュニケーションしている。<br>【数値指標】<br>アンケートの「児童は,英語を使ってコミュニケーションしている。」<br>⇒児童･教職員の肯定的回答　85%以上 | ①　授業を中心に,英語を使ってコミュニケーションを図ることの楽しさを味わえるよう,指導を充実させる。<br>②　英会話タイムの充実を目指し,年に数回校内研修を行い,教職員の指導力の向上に努める。 | 【達成状況】<br>児童の肯定的回答　　７８．０％<br>教職員の肯定的回答　　１００％<br><br>【次年度の方針】<br>・本校ならではの英語に特化した年間指導計画に沿って指導していく。<br>・校内研修で，コミュニケーションに軸を置いた指導法を学び，子供たちの習熟の状況を確認しながら，よりいっそうの指導力向上に努める。 |
| 本校の特色課題等 | Ｂ３　日本語や英語を使ったコミュニケーション能力を高めるための指導を推進している。<br>【数値指標】<br>アンケートの「教職員は児童が日本語や英語を使って進んで表現したりコミュニケーションしたりできるよう指導を工夫している。」<br>⇒児童･教職員の肯定的回答　85%以上 | ①　英語や日本語によるコミュニケーション能力を伸ばすために独自の会話科･外国語活動の年間指導計画に基づき，計画的，系統的に指導を行っていく。<br>②　英会話タイムと外国語の授業では,やり取りを重視した,楽しい授業作りを行う。<br>③　外国語活動や外国語については,中学校へのつながりを意識した研究を進めていく。<br>④　生活の場で,英語に触れられる機会を増やすために,高学年児童による英語での校内放送の充実を図る。 | 【達成状況】<br>児童の肯定的回答　　８９％<br>教職員の肯定的回答　　１００％<br>保護者の肯定的回答　８４．３％<br><br>【次年度の方針】<br>・英会話タイム，授業での充実を図り，引き続き定期的に校内研修を実施し指導力の向上を図る。<br>・生活の場で，英語に触れられる機会を増やすために，高学年児童による英語での校内放送を引き続き行う。 |

＜学校関係者による評価＞

・一人一人へのきめ細やかな指導や学校・家庭・地域の連携については，少人数であることや日常的に日本語や英語によるコミュニケーション力を高める指導を積み重ねることで，今後も学校のよさを生かした学校運営や，効果的な取り組みを行っていきたい。

・外国語・外国語活動の授業では，これまでの所産を生かしてそれぞれの学年に応じた指

導が継続されていた。子供たちは，楽しくコミュニケーションをする学習をすることができたと思う。

３．保護者及び地域住民その他の関係者に対する情報提供の状況

保護者及び地域住民・関係者に対し，特別の教育課程に関する取組について説明してきた。本校の特色ある教育活動を理解してもらえるようにしている。また，各種通信やホームページを通して，本校の取組について啓発している。

土曜授業の日には，特色ある教育活動を地域や保護者の方に見ていただくことで，本校独自の教育活動を理解してもらえるようにしている。その中で保護者や地域をはじめ多くの方々に公開する機会を設定し，学校の取組を紹介している。

４．　実施の効果及び課題

市の学習内容定着度調査の結果,「外国語を学ぶことが好き」という児童は，全校生平均 77％で，市の全学年平均の 80％を若干下回っている。毎日の英会話タイムでは，どの学年も英語でコミュニケーションを取りながら楽しく学んでいる。朝の放送や業間終了の放送，お昼の給食メニューの放送などを英語で行っているが，現在の児童の実態に応じた指導方法や内容について，さらに工夫していきたい。また，５・６学年の平均は79％で，市の５・６年生の平均 73％を上回っている。これは，低学年から，英会話に親しんできている成果であると言える。

他者と協力したり（95％），必要な情報を集め自分の考えを伝える（73％）など，進んで学習に取り組んでいるという項目について，児童は肯定的にとらえており，少人数での活発な意見交換を行う指導の成果の表れだと考えられる。児童は様々な場面において進んでコミュニケーションを図り，考えたことや伝えたいことを，話したり伝えたりできると実感していることが分かる。

また，外国語・外国語活動・英会話タイムの年間指導計画を見直すことでさらに児童にとっての学習意欲へとつながるような取組にも着手している。

今後は，教科書の内容とすり合わせ，本校の外国語指導についてさらに研修を積んでいく必要があると感じている。

５．課題の改善のための取組の方向性

課題改善のため，外国語科・外国語活動の目標，内容や他教科との関連を検討し，実践的に年間指導計画の見直しに取り組んでいく。さらに職員研修の充実を図り，教職員の指導力の向上に努めていく。